

熱海写真俳句撮詠物語

令和2年2月句会

優秀作・久喜更紗



さみどりをほどく四温の光かな

新年会で友人から早春の落の臺を頂いた。袋を開けると、ふわりと春の香りが広がる。会場では、今夜は落味噌で一献との声も聴かれ、春のほろ苦さが口に広がる気がした。すぐ頂くのは何だか可哀そうになり一晩置いた。翌朝、落の臺は窓辺の光にほどけ、香りは一段と増しカメラにその香りも収めたくなった。花言葉は「待望・愛嬌・真実は一つ・仲間」